

エゾアオカメムシ

澄川基地のミズナラの若木の新葉にカメムシが止まっていた。エゾアオカメムシでした。デジカメには 2014 年 5 月 28 日 14 時と記録されました。

カメムシたちは押並べて嫌な臭いを発しますので、お近づきになりたくありません。しかし、世界の昆虫図鑑を見ますとカメムシたちの装いには魅力があります。カラフルであり、奇抜な模様で驚かされます。そんな仲間内でこのエゾアオカメムシは極めて地味であります。ミズナラは食草ではないので、たまたま休憩していただけだと思われます。食草はマメ科、キク科の植物で、それらの汁を吸います。分布は日本全土。



カメムシ目(半翅目)として括られる昆虫は極めて多く、かつ広範囲に分布しています。平面的にもですが、水中しかも海水にまで棲息していますので、凄いバリエーションぶりなのです。口がストロー式であることが大きな特徴で、セミたちもその仲間です。動物食の場合は齧るのではなく、蚊のように口吻を刺して体液を吸い取る方式です。



シャーガスカメムシ

先年訪問したホンデュラスでシャーガスカメムシがいるから注意するようにと警告されたのを思い出しました。中央アメリカではシャーガス病といって恐れられているとのこと。こいつ等は人間の血を吸う場合に糞をしまして、その糞に病原菌が含まれていて、患部がかゆくて引っかいた皮膚から病原菌が進入するとのことですが、潜伏期間が30年とかの極めて長いので、感染者は平常なので世界に拡がります。保菌者の献血で日本にも発病例があるようなので、くれぐれもご注意下さい。とはいえ、我が会員たちは平均年齢からみても、今感染しても発病するまで生きている人はまずいないと思われます。

吸血といえばこの日、年に一度の澄川森林のゴミ出しをやりまして、藪の中のゴミを拾い集めるに際して、マダニに顎下の首に食い付かれました。家に帰ってから夕刻に気づいたのです。引っ張っても取れません。ワセリンをダニの上に厚くぬりまして窒息させて殺しましたが、翌朝引っ張りますと、体はとれましたが、頭が皮膚に残りました。自分で取れる場所ではありませんし、連れ合いは視力が衰えて出来ませんので、止む無く病院で頭を除去してもらいました。マダニによる病気はライム病とツツガムシ病とのことですが、10日~14日後には発病するようですから、自覚して注意することといたします。ダニ避けの薬が基地に備えでありますので、皆さん活用いたしましょう。



マダニ